

報告

2005年度徳島大学全学FD推進プログラムの実施報告

廣渡修一、曾田紘二、若泉誠一、森田秀芳、宮田政徳、川野卓二、神藤貴昭
(徳島大学 大学開放実践センター)

1. はじめに

本年度は、第2期全学FD推進プログラム(3カ年)の初年度である。第1期の反省をもとに、各プログラムの名称・内容等を一新して実施した。第一に、基礎プログラム、リーダーワークショップについては、従前の対象者の範疇を変えて実施した。第二に、FD応用プログラム(授業研究会)はFDコンサルテーションとし、FDシンポジウムはFDカンファレンスへと改訂した。また、新規プログラムとして、FDラウンドテーブルをスタートさせた。FDの日常化を図る、今年度の目玉プログラムの一つである。

第1期の反省をもとに改訂したプログラムが、その実をあげたのかどうか、細部にわたって評価は厳しくなされる必要があるが、アンケート結果などから、参加者の満足度や終了後の効果の度合い等、概ね所期の成果を上げたとみることができる。

しかしその一方で、FDの日常化・普及という側面に関しては、未だ道遠しという感は否めない。コンサルテーションやラウンドテーブルの参加者が、企画側の努力にもかかわらず、全般的に少ないこと、基礎プログラム参加者の中に、授業研究会を拒否する教員がいること等々、第1期の課題をそのまま引き継いでいる側面がある。

こうした問題は、実施組織である実践センター自体の問題ではなく、教員のFDに対する抵抗感、並びに全学FD制度における強制力の不徹底とに起因している。

FDが米国のように、全教職員の身近な活動として、自由に自発的に、かつまた多様な形で行われ、実施サイドが、クライアントの“求めに応じ”対応するスタンスがとれるようになるまでに

は、更に中長期的な展望が必要であろう。

当面は大学教育委員会による強制力を強化しつつ、各プログラムを改良し、年次計画としての一貫性、各部局FDとの連関等を追及しながら、着実に歩を進めるほかはない。

2. FD基礎プログラム

ここでは、企業等から採用、または助手からの昇任によって、新たに徳島大学で授業を担当することになった教員を対象者として実施した、「FD基礎プログラム」について報告する。

a. ねらい

今年度のこのプログラムは次の4点を目標に実施した。

- ①徳島大学全学FD活動の理念と活動計画を理解する。
- ②授業を計画し、実施し、評価する方法を体得する。
- ③授業研究の仕方を理解し、実践できるようになる。
- ④FDの共同実践者として仲間づくりができる。

b. 概要

■開催期日

2005年6月11日(土) 午前8時30分徳島大学 出発

2005年6月12日(日) 午後5時20分徳島大学 解散

■会場

独立行政法人「国立淡路青年の家」

(兵庫県三原郡南淡町阿万塩屋 757-39)

■対象者

企業等からの採用者及び助手からの昇任者。

参加者は以下の通りである。学部別に見ると、総合科学部1名、医学部5名、工学部5名、創成学習開発センター1名、合計12名である。

氏名	所属
趙 形	総合科学部
増田 裕	医学部
中村 教泰	医学部
前川 洋一	医学部
久保 均	医学部
坂東 良美	医学部
井上 廉	工学部
長濱 正巳	工学部
竹林 洋史	工学部
鈴木 良尚	工学部
泓田 正雄	工学部
桐山 聡	創成学習開発センター

■運営メンバー

大学開放実践センター長の他、大学開放実践センター教員6名、計7名で運営した。

■内容

2日間にわたって以下のプログラムを実施した。

第1日(2005年6月11日・土曜日)

9:30 国立淡路青年の家に到着・記念写真撮影

時刻	内容	講師・司会 (敬称略)	場所
9:30-10:00	・鍵の受け渡し、部屋の確認		第7研修室
10:00-10:30	(1)オリエンテーション ・徳島大学とFDへの期待、新任教官への期待 ・研修のねらいと意義 ・進め方とスタッフ紹介 (各先生5分程度)	副学長(教育担当) 開放実践センター長 (進行) 曾田紘二、宮田政徳	第7研修室
10:30-11:00	(2)アイスブレイキング	川野卓二	第7研修室
11:00-12:00	(3)はじめのWS「良い授業とは」 ・学生から見た良い授業・悪い授業 (学生アンケートの分析) ・グループ別発表	宮田政徳	第7研修室
12:00-13:00	昼食(12:15-12:40) 休憩		食堂
13:00-14:00	(4)講演 「パフォーマンス・マネジメントの視点から授業改善を探る」	島宗理先生 (鳴門教育大学)	第7研修室
14:00-15:00	(5)基礎プログラム参加者の授業紹介 講義の仕方・話し方・展開の仕方(講義)	森田秀芳	第7研修室

氏名	所属
廣渡 修一	大学開放実践センター長
曾田 紘二	大学開放実践センター
森田 秀芳	大学開放実践センター
若泉 誠一	大学開放実践センター
川野 卓二	大学開放実践センター
宮田 政徳	大学開放実践センター
神藤 貴昭	大学開放実践センター

■学外講師

氏名	所属
島 宗理	鳴門教育大学
佐藤 浩章	愛媛大学

■事務局

氏名	職名
前田 和丸	学務部長
井上 直志	教務課長
稲垣 敏	教務課課長補佐
三好 信幸	教務課教務係長
石井 清貴	教務課専門職員

15:00-15:30	(6)講義「授業の計画から準備まで」	神藤貴昭	第7研修室
15:30-16:00	「FDリーダーとの共有」15分発表、10分討議	大学教育委員会	第7研修室
16:00-16:15	コーヒーブレイク		
16:15-17:15	(7)WS＝「授業の計画と準備」 ・演習課題①(シラバス・授業計画を作成する) ・演習課題②(授業教材を作る)	センター教員全員	第10研修室 音楽室 第1研修室
17:15-17:30	・グループ別発表	センター教員全員	第7研修室
18:00-19:00	夕食(18:00～18:30) 風呂他(入浴時間16:00～22:00)		食堂・浴室
19:00-20:00	(8)(WS予備の時間)		
20:00-21:00	懇親会	宮田政徳	第7研修室

22:00 消灯

第2日(2005年6月12日・日曜日)

時刻	内容	講師・司会	場所
7:10-7:20	朝の集い		つどいの広場
7:30-8:30	朝食(7:50-8:10) 掃除 8:25 部屋点検・退室・朝の散歩		食堂・吹上浜
8:30-9:00	(9)講義「効果的な教え方ー実践的教授技術」 ・新人アンケートから見えてきたこと	神藤貴昭	第7研修室
9:00-11:30	(10)WS＝演習「授業づくりと教材研究」 ・演習課題の仕上げ	センター教員全員	第10研修室 音楽室 第1研修室
11:30-12:00	「ミニ授業」発表会打ち合わせ	若泉誠一	第7研修室
12:00-13:00	昼食(12:15-12:40) 休憩		食堂
13:00-13:30	「FDリーダーとの共有」15分発表、10分討議	大学教育委員会	第7研修室
13:10-15:30	(11)演習「ミニ授業」発表会 [授業紹介(2分)+発表(15分)+コメント(3分) +討議・検討(10分)]×3グループ	若泉誠一 神藤貴昭	第7研修室
15:30-16:00	(12)プログラムのまとめ ・修了証書授与式 (13)アンケート (14)おわりの言葉	副学長(教育担当) 開放実践センター長 (進行) 曾田紘二 宮田政徳	第7研修室

16:20 バス発車→17:20 常三島キャンパス着

■全体の流れ

オリエンテーションに続いて、参加者相互の親和を目指して「アイスブレイキング」を行い、グループ内で自分を動物に喩えた絵を描いて貰い、それを各自が説明しながら自己紹介をした。はじめのワークショップでは「良い授業とは」と

いうテーマのもとに、参加者が3つのグループに分かれ、あらかじめ用意した徳島大学の学生アンケート結果から、学生からみた「良い授業」を分析し、その成果をOHPシート2枚にまとめて、各グループ3分程度で発表した。

続いて鳴門教育大学の島宗理先生から、「パフ

パフォーマンス・マネジメントの視点から授業改善を探る」という題で講演をしていただいた。授業におけるパフォーマンス・マネジメントとは学生から学習活動を引き出し、フィードバックするための手段であり、常に学習データと学生の声を手掛かりに授業改善を目指すことが大切であることが強調された。

第1日目の午後から2日目の午前にかけて、参加者はシラバスと講義計画書の作り方、講義の仕方・話し方・展開の仕方についての講義を受けた。その後3グループに分かれ、それぞれ選択した授業科目「食生活学」、「恋愛学」、「新環境学」について、ワークショップを通じて、シラバス、講義計画書及び教材を作成した。

2日目の午後は、これらの作成物によって、グループ毎に15分間の模擬授業発表を行い、それに対する検討、討議を参加者全体で行った。

c. 成果と課題

■プログラムの到達目標に対する達成度について

[到達目標①：徳島大学の全学FD活動の理念と活動計画を理解する]

基礎プログラムと同じ会場で、同時並行して各学部のFD企画・実施担当者による「FDリーダーワークショップ」が行われていた。そこでは徳島大学の全学FD活動の理念と各学部のFD活動計画が話し合われ、この両者の2日間のプログラムの中で、お互いに2度だけ交流することができた。基礎プログラムの中では「FDリーダーとの共有」という時間である。初日と2日目に30分ずつ程度のFDリーダーから、現在の徳島大学のFD活動の理念、各学部の現状、課題、今後の活動計画等が発表され、それに対する質疑応答が行われた。このFDリーダーとの交流で基礎プログラム参加者も徳島大学全体のFD活動と自分が所属する学部のFD活動が十分理解できたと思われる。

[到達目標②：授業を計画し、実施し、評価する方法を体得する]

授業担当者は、授業という教育活動が「目標設

定、目標実現のためのシラバスと教材の作成、授業実施、授業評価」から成る一連の流れによって構成されていることを意識し、さらに、これらを実際に実施できる力をつけることが重要である。「FD基礎プログラム」は、講義とワークショップ及び模擬授業発表によってこの目標を達成しようとするものである。

今年度は、プログラムのこのような意義と目標が、昨年度と同様に良く理解されていた。実施4年目となり全学FDのプログラムが学内的にかなり周知、認知されてきたものと考えられる。

会場については、今年度は全体発表のための部屋とともに、グループ数だけワークショップを行う研修室が確保でき、参加者はグループごとの準備をスムーズに行えた。また、プログラム全体の進行も支障なく行えた。グループワークにとって、グループごとに独立した部屋を確保することは重要である。

[到達目標③：授業研究の仕方を理解し、実践できるようにする]

プログラムの最後に、各グループがワークショップを通じて作成した授業を発表し、その発表をめぐって授業研究会を行った。前年度と同じく、授業研究会は次のような手順で行った。

1. 授業発表グループのメンバーによる授業内容の紹介
2. 模擬授業（ミニ授業）の形で授業発表グループの授業発表者による授業
3. 発表グループ以外のグループ代表（コメンテーター）による模擬授業に対するコメント
4. 全体討議

ほとんどの参加者は、この模擬授業によって初めて「授業研究会」なるものを経験したと考えられる。従って、授業研究会の手続きを知り、その手続きに従って実際に授業研究会を行ったことには大いなる意義がある。このような経験によって初めて自分の授業を対象化し、意識化できるからである。

ここでの、模擬授業による授業研究会は、9月から12月にかけて実施された「授業コンサルテ

ーション」に引き継がれ、基礎プログラム参加者がカリキュラムの中で実際に行う自分の授業について、授業検討会が行なわれた。このような展開を通じて授業そのものの改善を図るとともに、「授業研究」についての認識と実施方法を、一層確かなものとして身に付けることが出来るようになった。

【到達目標④：FDの共同実践者として仲間づくりができる】

このプログラムの参加者12名は今年度は総合科学部、工学部、医学部、創世学習開発センターから参加していたが、3つの各グループは各学部の枠を越えた構成だったので、ワークショップを通じて学部を越えた横のつながりができ、交流を深めることが出来た。その点では、FDの共同実践者としての仲間づくりが大いに達成できたと思われる。

■計画から実施までの経過と改善について

授業技術に関する講義とワークショップ及び授業発表などの実践の組み合わせはプログラムとして有意義だったと思われる。また、今年度も前年度に引き続き、模擬授業作成資料として一般的な8テーマ「コミック学のみかた」、「恋愛学がわかる」、「新環境学がわかる」、「死生学がわかる」、「平和学がわかる」、「食生活学がわかる」、「童話学がわかる」、「コミュニケーション学がわかる」を用意し、その中から各グループが好きなテーマを自由に選択する方式をとった。

今年度はパソコン、液晶プロジェクター、OHP、スキャナー、コピー機等の機器及び文具を十分用意して、テーブルに配置し、自由に使用できるようにした。必要なものを探し回るといったこともなくなり、スムーズに作業を進められた。

今年度は模擬授業の教材作成のためにパソコンを使うことを、参加者に事前に周知しておいたので、全てのグループがシラバスと授業計画書をワープロで作成していた。教材作成のために、昨年度からインターネットが使える環境にしてほしいという意見があったが、現在の会場ではLAN

ケーブルの接続ができず、これは今年度も叶わなかった。会場は前年度と同じであったが、食事、作業環境、自然環境など、昨年度と同様に参加者にはおおむね好評だったと思われる。

■来年度のFD基礎プログラムに向けての課題

模擬授業のテーマについて、参加者へのアンケート調査の結果、「自分たちの専門外の分野のミニ授業を作り上げるのは難しかった」とか「ミニ授業は前もってテーマを連絡してもらえば、もっと教材の工夫ができたのに」という意見があった。来年度は模擬授業のテーマをどのように設定するかが課題になると思われる。

またアンケートの中の意見に、「このプログラムは内容的に参加者が受動的なスタイルになっているので、部分的にでも参加者のリクエストに沿った講演、ワークショップ(講義に活用できるWeb作成講座、学生との上手な交流の仕方講座、効果的なパワーポイントの裏技講座、等)があってもいいのではないか」という意見が見られたので、来年度の基礎プログラムではもう少し即戦力として役立つ実践的な内容も必要だろうと思われる。

3. FDリーダーワークショップ

a. ねらい

全学FD推進プログラム第2期の初年度である今年、リーダーワークショップでは、プログラムの目標、内容、対象者を昨年度までとは全面的に変更した。

対象者は、10年以上の教育経験を有し、各学部・学科でFD企画を立案・実施する立場の教員とし、FDニーズの把握から企画の立案及びプログラム評価の方法までを、レクチャーとワークショップを通じて体得し、FD企画の立案能力を向上させることを目標とし、プログラムはFD中四国ネットワークで開発したFDファシリテーター養成プログラムを使用した。従前以上に、明確な目標を設定し、実践的内容をもったプログラムを実施した。

当日は、愛媛大学教育開発センターの佐藤浩章

先生をファシリテーターとしてプログラムを実施した。

学外者

氏名	所属
佐藤浩章	愛媛大学
島宗理	鳴門教育大学

参加者

氏名	所属
川上博	副学長(教育担当)
寺嶋吉保	医学部
西田敏信	医学部
堀尾哲也	医学部
吉本勝彦	歯学部
大石美佳	医学部・歯学部附属病院
滝口祥令	薬学部
村上理一	工学部
久保智裕	工学部
櫻庭春彦	工学部
岸本豊	全学共通教育センター

b. 概要

日時：平成17年6月11日(土)～12日(日)

会場：独立行政法人 国立淡路青年の家

プログラム：

第1日(2005年6月11日・土曜日)

(敬称略)

時刻	内容	講師
9:30-10:00	・鍵の受け渡し、部屋の確認	
10:00-10:30	(1)オリエンテーション ・徳島大学とFDへの期待、新任教官への期待 ・研修のねらいと意義 ・進め方とスタッフ紹介	副学長(教育担当) 大学開放実践センター長 (進行)曾田紘二 宮田政徳
10:30-11:00	(2)アイスブレイキング	曾田紘二
11:00-12:00	(3)「メンターとは?必要な能力は?」	川野卓二
12:00-13:00	昼食(12:15-12:40) 休憩	
13:00-14:00	(4)講演「パフォーマンス・マネジメントの視点から授業改善を探る」	島宗理 (鳴門教育大学)
14:00-15:30	(5)FD企画の立案と実施 I 「FDと教育改善」 (6)FD企画の立案と実施 I 「ニーズの把握」 ワーク I 「ニーズの把握」	佐藤浩章 (愛媛大学)
15:30-16:00	基礎プログラムとの共有 15分発表、10分討議	大学教育委員会
16:00-16:15	コーヒーブレイク	
16:15-17:30	(7)FD企画の立案と実施 II 「プログラム作成と研修技法の選択・手順」	佐藤浩章
18:00-19:00	夕食(18:00-18:30) 風呂他(入浴時間16:00~22:00)	
19:00-20:00	(WS予備の時間)	
20:00-21:00	交流会	

22:00 消灯

第2日(2005年6月12日・日曜日)

時刻	内 容	講 師
7:10-7:20	朝の集い	
7:30-8:30	朝食(7:50-8:10) 掃除 8:25 部屋点検・退室・朝の散歩	
8:30-10:45	(8) FD企画の立案と実施 III「研修当日の流れ」 ワーク II「実施要項作成」	佐藤浩章
10:45-11:40	(9) FD企画の立案と実施 IV「研修の評価」	佐藤浩章
11:40-12:00	(10)徳島大学でのメンター・メンティシップの 在り方	川野卓二
12:00-13:00	昼食(12:15-12:40) 休憩	
13:00-13:30	基礎プログラムとの共有 15分発表、10分討議	大学教育委員会
13:30-15:30	(11)「ミニ授業」発表会 [授業紹介(2分)+発表(15分)+コメント (3分)+討議・検討(10分)]×3G	若泉誠一
15:30-16:00	(12)プログラムのまとめ ・修了証書授与式 (13)アンケート (14)おわりの言葉	副学長(教育担当) 大学開放実践センター長 (進行)曾田紘二 宮田政徳

16:20 バス発車 - 17:20 常三島キャンパス着

c. 成果と課題

はじめに、プログラム終了直後にとった、参加者へのアンケート結果を示す。

[参加前に比べて FD 企画力が向上したと思うか]

- ・向上した 8名
- ・無回答 1名

[今回のプログラム内容について]

1. 良かった
2. FDを企画する立場のWSとして興味深いものであった。
3. 初めてワークショップを立案する機会であり、未経験であったものが実体験できた。教育学 or 心理学などの異分野の先生の話が非常に参考になった(島村先生)。メンターについては留学中に耳にしていたが良く理解できた。
4. このような合宿への参加は初めてでありグループの人たちについて行くのが精一杯で、積極性に欠けたと思う面があった。

5. WSとしては、環境が異なる参加者間でひとつのプログラムを仕上げるには難しい内容だった。

6. 参加者自身が手と頭を動かして作業する時間が多く、退屈せず、内容が濃いという印象が残った。

7. 講義あるいはWSは通常の教育活動ではほとんど経験できないもので、いい刺激にはなると思う。WSの時間はもう少し長い方が良い。

8. FD企画の立案に関する内容とメンタリングに関する内容の位置づけがいまひとつ明確でなかったような気がする。パフォーマンス・マネジメントに関する講演は新鮮だった。

9. 適切であったがプログラムの目的を明確にした方が良い。

[今回のプログラムの運営について]

1. 良かった
2. 時間に余裕のあるWSだった。もっと追い

立てられてもよかった。

3. 時間的にはタイトすぎることなく適当であった。
4. 予備知識がないため、ミニレクチャーの内容を十分には理解できないことがあった。グループ討議で理解度を深めることができた。
5. 事前にある程度情報をもらっていたら良かった。
6. 作業時間や課題などが適度に **demanding** で良かった。作業や講習内容についてのサポートも適当であったと思う。
7. 特になし
8. 特になし
9. スポーツ、散歩などリラクソプログラムを入れることも必要?

[今回のプログラムの会場について]

1. 良かった
2. 良かった
3. 特に問題なし
4. 前に一度来たことがあるので、とまどうことは少なかった。
5. 可もなく不可もなく。
6. 研修施設としては整っていると思うが、宿泊施設としては快適とは言えないと思う。学内施設を利用する方が移動時間、経費の節約になるのではないかと考える。
7. 場所、環境は良かった。1泊2日にする場合、大学より1時間程度が良いと思う。
8. 良い
9. 適切

[今回のプログラムの全体的な印象]

1. 学科FDを企画する予定があったので良い機会だった。蔵本地区のFDを考える機会になった。
2. このWS受講者として、今後各部署で反映するにはどのようにすれば良いのかという心配がある。というのは各学部で人選した人がこのプログラムの趣旨を理解していたのかなと思うから。
3. 他学部、他学科の人たちとの交流が役立つ

た。リーダーWSでも教育スキルについての情報がいただければ参考になると思う。

4. 学科としてこれまで実施した経過を知らなかったので内容を十分に把握するのにとまどった。
5. 各学科、授業の状況や求められる内容が異なるため、ひとつの方法、システムがあるということを紹介して頂けるのは有り難いが、画一的に導入するのであれば如何なものかと思う。今後はもう少しニーズ別に必要とする参加者で構成された方が効果が高いと思う。
6. 今後FDを運営する側の人間を対象とした講習として適当な課題設定で、ノウハウを学ぶことができたと思う。私自身は基礎プログラムを受講せずにこのプログラムに参加しましたが、やはり基礎プログラムへの参加をしたうえで参加した方が良いと考えられる。
7. 今回はリーダーワークショップの方の参加で、この手のプログラムの初の参加であった。通常の教育活動ではほとんど経験することがなく、企画・立案等大いに参考になり、いい経験だと思う。ふだん交流のない他部局の教員と話のできるいい機会である。
8. 2日間ぎっしり、みっちりという印象。
9. 企画実施運営が大変である。

参加者へのアンケート結果に見られるとおり、学部や学科でFDを企画する立場の参加者に対しては、所期の目的を十分に達成することができた。

課題としてはリーダーワークショップへの参加者の人選を工夫する必要がある。基礎プログラムその他、FDプログラムの未経験者がいきなりリーダーワークショップへ参加している例があったが、各学部で対象者を人選する際に、このプログラムの趣旨をよく理解していただき、趣旨にあった人選をしていただく必要がある。又、学部・学科によって必要とされているFDの内容に違いがあるという問題も指摘されているが、この点については、今回の内容は、FDプログラムを立てる上で必要とされる基本的知識と技法であ

るので、分野を問わず必要な内容だったと考えている。

今回、当初三人の推薦がありながら全員参加を辞退し、最終的に一人も参加者のいない学部があった。全学FDの趣旨を周知させるとともに安易な辞退を認めないようにしなければならない。

4. FD コンサルテーション (授業研究会)

a. 概要

徳島大学では、全学FD推進プログラムの一環として、2005年度より「授業コンサルテーション」を実施している。これは、合宿形式で実施した「FD基礎プログラム」(2005年は6月に実施)の受講者、すなわち徳島大学に新しく着任した教員を主な対象にした企画である。これまで一般的に我が国のFDは、どちらかというところ啓蒙的・非日常的におこなわれることが多かったのに対して、授業コンサルテーションでは、個々の教員の実情に沿った具体的で日常的なFDをめざしている。

b. 流れ

現在のところ、次のような流れで進めている。

FD基礎プログラム参加者の授業への参観・VTR撮影・学生アンケート

↓

授業記録作成・学生アンケート整理

↓

授業研究会(発表・VTR視聴・議論)

↓

目的: 授業の把握、授業の改善、参加者間での授業技術の共有化

まず、センター教員とFDマネージャーが、各教員の授業を参観し、簡単なメモをとりつつ、授業をVTRに収める。授業終了時には、学生へのアンケート(その日の授業で何を学んだかということと、授業に関する先生へのメッセージについて)を実施する。さらに時間があれば、教員に授業に関する簡単なインタビューをおこなう。その

後、VTRをもとに、センター教員が詳細な授業記録を作成し、それと平行して授業の主要部分の映像を編集し、DVDを作成する。授業記録は、時系列に沿って授業の展開過程(まとめ、何が話されているか、学生との相互作用、板書など)がわかるように作成した。DVDは授業の展開が分かるように、各まとめから数分間の映像を抽出し、合計で20分強になるようまとめた。さらに、授業より数週間後、授業記録やDVD、学生アンケート結果をもとにした「授業研究会」を開催する。そこでは、様々な部局からの参加者を交えて、授業改善の知恵を出し合ったり、また授業からいろいろなことを学び合うことをめざした。

c. 授業研究会

授業研究会は以下のような手順で進めた。所要時間は全部で1時間20分ほどである。

簡単な説明(授業全体のねらい/この日のねらいなど: 対象者の先生より5分)

↓

DVD視聴

↓

授業参観者報告・学生アンケートから読めること(大学開放実践センター教員より5~10分)

↓

授業者解説(当日の様子/授業でうまくいっている点・お困りの点など各論: 対象者の教員より5~10分)

↓

自由討論(あるいは課題討論10~15分)

徳島大学に着任した新任教員のうち、授業をもたない教員などを除き、2005年度は8名の教員に対して授業コンサルテーションをおこなった。なお、授業研究会は、大学開放実践センター会議室・授業研究インテリジェントラボあるいは蔵本キャンパスの会議室でおこなった。2005年度の授業研究会は以下の通りである。

第1回 7月25日

工学部化学応用工学科 鈴木良尚講師
『物質機能化学および演習』

第2回 8月23日

創成学習開発センター 桐山聰講師
『今そこにある課題』

第3回 10月28日

総合科学部人間社会学科 趙彤助教授
『金融論Ⅱ』

第4回 11月1日

大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
神経情報医学部門 中村教泰講師
『総論(支持組織)』

第5回 11月10日

工学部建設工学科 竹林洋史助教授
『情報処理』

第6回 11月28日

大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
再生修復医歯学部門 坂東良美講師
『子宮の病理』

第7回 12月16日

大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
統合医療創生科学部門 前川洋一講師
『MHCクラスⅠへの抗原提示』

第8回 2月28日

大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
再生修復医歯学部門 増田裕講師
『閉塞性動脈硬化症』

d. 成果と課題

授業研究会では、板書、声の大きさや速さ、プリントの作成と提示、パワーポイントの作成と提示、授業の展開、学生の学力把握、学生との相互作用のあり方、学生の遅刻、学生の動機づけ、さらにはカリキュラムの問題など幅広く議論がなされた。授業研究会では大学開放実践センター教員のほか、対象教員が所属する部局等からの参加がみられた。

授業コンサルティングは、緒についたばかりである。その効果を調査しさらにコンサルティングのあり方を検討する必要があるが、FD基礎プログラムに接続した、このような教員の個性を

重視したFDが必要であると考えている。

5. FD ラウンドテーブル

a. 概要と成果

本年度の新しい企画として、FD ラウンドテーブルが開催されるようになった。FD 活動がもっと日常的な活動となることを目指し、気軽に集まり話し合える場を提供することが目的である。話題提供は、学内に限らず、広く学外の有識者にも依頼している。今年度は合計4回開催した。

第1回FDラウンドテーブルは、前期末を控えた7月6日に開催された。「よい期末試験を作成するには・・・」というテーマで、実践センターの川野教員が話題提供した。テストが持つ、プラス、マイナスの効果を知り、学生の学びを促進することが出来るような工夫をすることで期末試験もより良くすることが出来ることを確認した。その後、参加者全員で討論を行い、期末試験に関するアイデアの共有化を計った。また、年度末に実施予定の第1回徳島大学教育カンファレンスの概要を発表した。(参加者9名)

第2回FDラウンドテーブルは、後期授業開始を控えて、授業をどのようにスタートするか考える時期である9月21日におこなわれた。本ラウンドテーブルの趣旨は「授業をどう始めるか」について教員同士で考えるということであった。まず大学開放実践センターの神藤助教授がパワーポイントのスライド上映・解説の後、参加した教員が各自の授業開始第1回目の様子について発表し、議論がなされた。神藤助教授は、授業の始め方を「緊張志向 vs 緩和志向/身体重視 vs 内容重視」という2軸によって4つの「学生集団別・第1回目の授業タイプ」に分類し、それに沿って各教員からな授業開始時の工夫が話され、様々なアイデアを共有した。(参加者5名)

第3回FDラウンドテーブルは、学期途中の11月14日におこなわれた。授業を実施していると、大学教員は、思ったよりも学生が理解しておらず驚いたり、あるいはだんだん学生の受講態度が悪くなってきたなどということを経験する。この時期では、このような学期途中の思いがけない出来

事や変化にどう対処するべきか悩むことが多いと思われる。そこで今回は青年心理学・高等教育の研究者で、高等教育関連著書も多数ある、京都大学高等教育研究開発推進センターの溝上慎一助教授を迎え、「学期途中の評価をどうするか」と題して今までの授業改善での失敗談、苦労話などをもとに発表いただき、さらに参加者間で討論をおこなった。学生が受講後授業に満足し、その授業を受けて良かったと感じられる授業をおこなうことの難しさ、よい授業とは何なのかということについて議論がおこなわれた。(参加者15名)

第4回FDラウンドテーブルは、医学部保健学科の吉永哲也教員の話題提供により、「はじめよう、eラーニング授業～目的に合ったLMSの選択とウェブ教材の作成～」のテーマで1月30日に開催された。eラーニング授業を展開するために必要になるLMSに関する情報提供があり、実際に保健学科で行なわれている授業が紹介された。

今後、徳島大学において、より多くの教員がeラーニングによる授業を展開することが出来るように、U-ラーニングセンターの活動が広く認知されること、また専門的なサポートスタッフの確保、養成が急がれる。(参加者19名)

6. FDカンファレンス

a. 概要と成果

第2期計画の悼尾を飾るプログラムが、徳島大学教育カンファレンスである。最近一年間に試行を重ねてきた各部署の教育改善プロジェクトが、一堂に会して報告、討議を行うものである。昨年までのFDシンポジウムに代えて、新しく設定した。各部署から口頭発表12本、ポスター発表13本、が集まった。また、国際交流基金で大学開放実践センター招聘したコネチカット大学教授・学習インスティテュート所長Keith Barker教授による講演「教員の学習共同体による教育の質改善」を行った。参加者100名。

平成17年度 全学FD 徳島大学教育カンファレンス プログラム

会期：平成18年3月15日(水)

会場：徳島大学工学部内共通講義棟 K501, K502, K507, K508 講義室

9:00 ~ 9:30	<5階中央エレベーター前> 受付		
9:30 ~ 9:35	<K502講義室> 学長挨拶 青野敏博		
9:45 ~ 11:45	研究発表 I (口頭発表)	セッションA 座長：曾田紘二 <K502講義室> A① 9:45~10:10 工学部 教授 英崇夫 『5大学教育連携とギガビットネットワーク(JGNII)による新しい教育の試み』	セッションB 座長：廣渡修一 <K501講義室> B① 9:45~10:10 大学院ヘルスバリエーション研究部 教授 滝口祥令 『薬学教育6年制への対応』
		A② 10:15~10:40 総合科学部 教授 日置善郎 『非物理系学生のための物理教育』	B② 10:15~10:40 徳島大学病院 総合歯科診療部 講師 大石美佳 『医歯薬系のコミュニケーション教育における模擬患者の育成』

		<p>A③ 10:45~11:10 全学共通教育センター・総合科学部 教授 桑折範彦 『徳島大学における 2006 年問題への 対応—学びの e コンテンツ開発と学 習支援—』</p>	<p>B③ 10:45~11:10 大学院ヘルス・イノベーション研究部 統合医療教育開発センター 青木記子 『統合医療教育に関する取り組み について』</p>
		<p>A④ 11:15~11:40 全学共通教育センター 講師 松谷満 『共通教育における学生による授業 評価から』</p>	
<p>昼食休憩</p>			
13:00~ 14:30	講演会	<p>司会：川野卓二 <K502 講義室> Keith Barker 教授 コネチカット大学 (副学長補佐) Institute for Teaching & Learning 長 演題「教員の学習共同体による教育の質改善」</p>	
14:45~ 15:45	研究発表 II (ポスター 発表)	<p>ポスターセッション 座長：宮田政徳 <K507・508 講義室> 総合科学部 助教授 齊藤隆仁 『共通教育・創成学習「つたえること」と「ものづくり」』 P① 『共通教育における大学入門科目(物理学)』 P② 総合科学部 教授 大橋眞 P③ 『創成学習 今そこにある課題 —身近な福祉介護を見て・知って・考えてみる—今後の課題と展望』 総合科学部 助教授 佐竹昌之 P④ 『徳島大学における大学体育の改革～健康スポーツからウェルネスへ～』 総合科学部 講師 田中耕市 P⑤ 『GIS とフィールドワークを併用した実習型教育』 総合科学部 助教授 高橋晋一 P⑥ 『「聞く」講義から「見る」講義へ —全学共通教育・教養科目における実践より』 総合科学部 講師 大沼正樹 P⑦ 『高大連携科目としての自然科学入門・数学』 工学部 教授 英崇夫 P⑧ 『全学共通教育創成学習「ルーツを探れ」』 大学院工学研究科エコシステム工学専攻 助教授 藤澤正一郎 P⑨ 『全学共通「創成学習」科目における能力自己評価』 医学部保健学科 助手 藤本憲市 P⑩ 『EDB/CMS と汎用 LMS を用いた e-ラーニングシステムの構築』 埋蔵文化財調査室 助教授 定森秀夫 P⑪ 『平成 17 年度創成学習「埋もれた文化遺産」』 大学開放実践センター 教授 曾田紘二 P⑫ 『共通教育・創成学習「大学ってどんなところ？—大学での学習探索講座—』 大学開放実践センター 助教授 神藤貴昭 P⑬ 『全学 FD プログラム「FD 基礎プログラム」「FD リーダーワーク ショップ」の評価』</p>	

16:00~ 17:30	研究発表 Ⅲ (口頭発表)	セッションC 座長：森田秀芳 <K502講義室> C① 16:00~16:25 総合科学部 教授 有馬卓也 『全学共通教育学習支援室について』	セッションD 座長：神藤貴昭 <K501講義室> D① 16:00~16:25 総合科学部 助教授 出口竜也 『工学研究科における技術経営(MOT)教育の取り組み～企業OBを活用した実践的教育プログラムの開発～』
		C② 16:30~16:55 総合科学部 教授 大橋眞 『徳島大学全学共通教育改革－大学全入時代の自然科学教育に向けて－』	D② 16:30~16:55 総合科学部 助教授 豊田哲也 『総合科学型社会統計教育プログラムの開発と実践』
		C③ 17:00~17:25 全学共通教育センター・総合科学部 教授 桑折範彦 『大学入門講座の意義と展開』	